

<特集補遺「受動表現」>

中国語における受動表現 Passive expressions in Chinese

三宅 登之
Takayuki Miyake

東京外国語大学大学院総合国際学研究院
Tokyo University of Foreign Studies

要旨: 本稿は特集「受動表現」(『語学研究所論集』第14号, 2009, 東京外国語大学)に寄与する。本稿の目的は10個のアンケート項目に対する中国語データを与えることである。

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on ‘passive expressions’(Journal of the Institute of Language Research 14, 2009, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer the Chinese data for the question of 10 phrases.

キーワード: 受身文, 介詞, 受動者, 動作主

Keywords: passive sentence, preposition, patient, agent

本稿では, アンケート項目に回答する形を通して, 以下に中国語の言語データを示す¹。

[1]李さんは王さんに叩かれた。

小李 被 小王 打 了。

PSN PREP PSN beat PRF

三宅 2009 で詳述したように, 中国語の受身文は, まず受動者 (patient) が主語に立ち, その後に動作主 (agent) が介詞 (前置詞) “被” によって導かれ, 次に動詞と, 受身の事態の結果を表す成分が続くことにより構成される。[1]では, 受動者が“小李”(李さん), 動作主が“小王”(王さん)という関係で, “小李”が叩く(“打”)という動作を“小王”から受けたのである。動詞の後には, 受動者が影響を示す様々な成分が続くのが通常であるが, [1]では動詞に他動性の高い“打”が用いられているので, “了”を後続させることによって, 受身の行為の結果の影響を表している²。受身文の中で, [1]のように介詞“被”を用いた構文は特に“被”構文(“‘被’字句”)と呼ばれる場合がある。

[2]李さんは王さんに足を踏まれた。

小李 被 小王 踩 到 了 脚。

PSN PREP PSN step on reach PRF foot



本稿の著作権は著者が保持し, クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

¹中国語データは, 呉心怡さん(本学大学院博士前期課程, 中国四川省成都市出身)にご提供いただいた。ご協力に感謝の意を表す。ただし, 小稿での分析に問題点があれば全て責任は筆者(三宅)に帰するものである。

²受身文の動詞の後続成分が“了”でも成立するのは他動性の高い動詞に限られ, 通常は結果補語などの成分が必要になる。詳細は三宅 2009:50-53 の「4.4.結果段階の前景化——中国語において」の議論を参照。

「李さんは王さんに踏まれた」ではなく、さらに“脚”（足）という“踩”（踏む）の目的語に相当する成分があるので、日本語の発想でそのまま訳すと、

?小李 被 小王 踩 了 脚。
PSN PREP PSN step on PRF foot

となるが、複数の中国語母語話者の語感では、このような“踩了脚”という言い方は不自然であるという。実際、コーパスにおいても、“踩了脚”という言い方はほとんど存在しないようである。中国語母語話者によると、動詞に方向補語³の“到”を付加して“小李被小王踩到了脚。”と言えば文が自然になるという。この文における方向補語“到”は、踏む方の王さんの足が、踏まれる箇所である李さんの足に、実際に到達したことを明示している。

あるいは、[2]の事態は次のような表現でも自然に表すことができる。

小李 的 脚 被 小王 踩 了。
PSN GEN foot PREP PSN step on PRF

この文では、“小李的脚”（李さんの足）が主語になり、「李さんの足が王さんに踏まれた」という意味を表す構造で、結果的に同一の事態を表しているわけである。

[3]李さんは王さんに財布を盗まれた。
小李 的 钱包 被 小王 偷 走 了。
PSN GEN purse PREP PSN steal leave PRF

この文では、“小李的钱包”（李さんの財布）が主語に立っており、「李さんの財布が王さんに盗まれた」という形の文となっている。“偷”が「盗む」という意味の動詞で、“走”が結果補語で、盗まれた財布が元の場所から離れて行きなくなったという結果段階を表している。日本語と同じように「李さん」を主語に立てた文はどうであろうか。

?小李 被 小王 偷 走 了 钱包。
PSN PREP PSN steal leave PRF purse

この文は、「李さんが王さんに財布を盗まれた」という、日本語の文と同じ発想の語順の文になっているが、母語話者の語感では、書き言葉ではこのような文が使われることもあるものの、話し言葉ではこのような言い方をすることはないという。

[4]昨日の夜、私は赤ん坊に泣かれた。それでちっとも眠れなかった。
昨天 晚上 孩子 哭 得 我 根本 没 睡 着。
yesterday evening child cry PTCL PRN1 at all NEG sleep succeed in doing sth

³ このような“到”を方向補語ではなく結果補語とする立場もあるが、どちらであっても本稿の議論には影響しない。

文頭の“昨天晚上”は時を表す修飾語、次の“孩子”（子ども）が主語である。動詞“哭”（泣く）が続き、その動詞の後に、構造助詞“得”を挟んで様態補語を伴っている。この文では“我根本没睡着”（私は全く眠れなかった）という文の形式が様態補語になっている。「私が全く眠れなかった」という程度で子供が泣いたという構造の文と理解して構わないが、実際には動詞と様態補語の間で、子供が泣いたために、私は全く眠れなかったという因果関係を表している。いずれにせよ、このような複雑な様態補語が後続している場合は、次のような「赤ん坊に泣かれた」のような構造の受身文の形では言えないようである。

*昨天 晚上 我 被 孩子 哭 得 根本 没 睡 着。
yesterday evening PRN1 PREP child cry PTCL at all NEG sleep succeed in doing sth

[5]新しいビルが（李さんによって）建てられた。
小李 新 建 了 一 座 大楼。
PSN recently build PRF 1 CLF big building

この文においても、“小李”（李さん）が主語になり、「李さんが新たにビルを1棟建てた」という能動文の形式になっている。次の受身文の形は成立しない。

*一座 大楼 被 小李 新 建 了。
1 CLF big building PREP PSN recently build PRF

[6]カナダではフランス語が話されている。
在 加拿大 人们 说 法语。
PREP Canada people speak French

“在”は「～で」という行為の行われる場所を表す介詞（前置詞）である。“在加拿大”（カナダにおいては）と介詞フレーズでまず場所を指定し、“人们”（人々）という原文の日本語にはない動作主を主語に立て、“说法语”（フランス語を話す）という述語を後続させた能動文の形式にしないと、この意味は表現できない。「フランス語が人々に話される」のような語順の、形式的に受身文にした次の文は全く成立しない。

*在 加拿大 法语 被 人们 说。
PREP Canada French PREP people speak

[7]財布が（李さんに）盗まれた。
钱包 被 小李 偷 走 了。
purse PREP PSN steal leave PRF

[3]の解説で述べたように、盗まれた物を主語に立てるこのような文は、中国語として自然に成り立つ文である。

[8]壁に絵が掛けられている。

墙上挂着 一幅画儿。

wall on hang DUR 1 CLF picture

“墙上”（壁の表面）という場所を表す成分が主語になり，動詞“挂”に動作の結果状態の持続を表すアスペクト助詞“着”を付加し，“一幅画儿”（1枚の絵）という存在物を目的語に配置した，存現文という中国語の構文である。[8]の意味の場合，この存現文が中国語としての最も自然な表現になる。

次のように，“被”を用いて受身文の形式で言うとうどうなるだろうか。

有一幅画儿 被挂在墙上。

exist 1 CLF picture PREP hang PREP wall on

“有”は「ある」という意味の存在を表す動詞で，“一幅画儿”（1枚の絵）が，“有”の目的語であると同時に“被挂在墙上”（壁に掛けられている）の主語も兼ねた兼語という成分で，文自体は兼語文という中国語の構文である。この文は成立するが，中国語母語話者の語感では，この文を用いると「この絵は本来はこの壁に掛けられるべきではないのに，その絵が掛けられてしまっている」という意味が生じてしまうという。

[9]李さんは王さんに／から愛されている。

小王爱小李。

PSN love PSN

“小王”（王さん）が主語，“小李”（李さん）が動詞“爱”（愛している）の目的語になっている。通常はこのように「王さんは李さんを愛している」という語順の能動文の形で言わなければならない。次のように受身文の形で言うと，動詞に状態の持続を表すアスペクト助詞“着”を付加すれば，完全な非文とまではいかないが，文がそこで終止せず不自然な感じがするという。

?小李被小王爱着。

PSN PREP PSN love DUR

この文は，次のように文がここで終止せずに後続成分が続く場合は成立する。

小李被小王爱着，非常幸福。

PSN PREP PSN love DUR very happy

「李さんは王さんに愛されていて，非常に幸せだ」という文である。しかしこの文においては，「李さんが非常に幸せである」という後半部分に意味の重点があるのであり，前半部分で述べられている「李さんは王さんに愛されている」という内容は，その背景となっているに過ぎない。アスペクト助詞“着”の背景化の機能がはたらいっていると言える。その部分が背景化されているという意味では，[9]の能動文の訳と同一視することはできない。

[10]李さんは王さんに／から「…」と言われた。

小王 跟 小李 说：“…”。

PSN PREP PSN say

“小王”（王さん）が主語で、話しかける対象を表す介詞“跟”が“小李”（李さん）という目的語を伴い、「王さんは李さんに…と言った」という能動文の形にしなければならない。「李さんは王さんに…と言われた」という受身文の形の文は成立しない。

*小李 被 小王 说：“…”。

PSN PREP PSN say

[10-a]李さんは王さんに呼ばれて、今王さんの部屋に行っています。

小李 被 小王 叫 过去了, 现在在 小王 的 房间里。

PSN PREP PSN call pass PRF now be in PSN GEN room inside

[10-b]王さんが李さんを呼んで、李さんは今王さんの部屋に行っています。

小王 叫 了 小李 过去, 小李 现在在 小王 的 房间里。

PSN call PRF PSN pass PSN now be in PSN GEN room inside

ある人が別の人を来るように呼んだことを述べる場合は、通常は[10-b]のように「王さんが李さんを呼んだ」という能動文の形で表現するが、上記のような、その結果現在どこにいるかを重点的に伝達するような文脈ならば、[10-a]のような「李さんが王さんに呼ばれた」という受身文の形式も成立するというのが、中国語母語話者の判断である。

参考文献

李临定. 1980. 「“被”字句」, 『中国语文』第6期, pp.401-412.

屈哨兵. 2008. 『现代汉语被动标记研究』华中师范大学出版社.

邢福义主编. 2006. 『汉语被动表述问题研究新拓展』华中师范大学出版社.

游舒. 2016. 『现代汉语被字句研究』北京语言大学出版社.

木村英樹. 1992. 「BEI 受身文の意味と構造」, 『中国語』6月号, pp.10-15.

三宅登之. 2009. 「行為連鎖の観点から見た中国語の“被”構文」, 『語学研究所論集』第14号, pp.33-64.

大河内康憲. 1982. 「中国語の受身」, 寺村秀夫他編『講座日本語学 10 外国語との対照 I』明治書院, pp.319-332.

執筆者連絡先 : tmiyake@tufs.ac.jp

原稿受理 : 2019年12月6日